第５回光市地産地消プラン推進会議　議事録

日　時　令和５年２月１４日（火）１３時～１４時
場　所　光市役所３階　大会議室１・２号
出席者　委員　１６人（欠席　９人）、事務局　３人

１　開会

２　議長あいさつ

冠山の梅の花が咲く季節となった。

第４次光市地産地消プランの策定作業がいよいよ大詰めを迎え、本日は、最終案を検討する会議となる。どうか委員の皆様には、活発な議論をお願いしたい。

３　議題　第４次光市地産地消プラン（案）について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員

小・中学生向けアンケートについて、せっかく行うのであれば、数を聞くだけではなく、「なぜ」を聞くことで、次の施策や取組につながるのではないか。例えば、将来の職業としての農業や漁業への興味が低い点については、何がネックになっているのかなどを聞くことができれば、将来の担い手確保につながる可能性もあると思う。

プラン完成後、新しい施策をどのように市民に知らせるか。新しい施設ができたことを地元の人が知らないケースもある。伝わることはもちろん、市民が関わることができるような投げかけをしてほしい。

●委員

小・中学生向けアンケートの結果を見て、小学生と中学生の回答にけっこう差があることに驚いた。

残念だったのは、将来の職業として農業にあまり興味がないという点。農家として農業の魅力をアピールできればと思う。

●委員

学校給食における光市産品の使用率を30%まで上げる目標が設定されている。出荷者側から見ると、例えばジャガイモやタマネギなどは、保存施設がないと大量の出荷は難しい。また、給食に出荷すると他に出荷できなくなる。さらに、出荷単位が「個数」の場合は、数を数える手間を考えると出荷できない。給食は月ごとの計画があるので、どのようにスケジュールに合わせていくかが課題だが、小規模農家にとっては厳しい。何とか協力できるように、関係者で協議していきたい。

●委員

何か仕組みが必要だと感じる。

●委員

小・中学生向けアンケートの結果を見て、普段食べているものの産地を気にしている小学生が多いことが意外だった。

先日、幼稚園の園児にイチゴをプレゼントした。少人数であれば協力できることもある。小さいところから始めて、地産地消につながればと思う。

●委員

小・中学生向けアンケートでは、野菜や魚が好きと答えた子どもが80%程度いるが、実際には、40代以下の人は調理していない魚には興味がなく、興味があるとすれば刺身だけ。回答とのギャップを感じる。

●委員

小・中学生向けアンケートの結果を見て、「ハモ」が光市を代表する農林水産物として認識されていることを初めて知った。逆に、光市を代表する農林水産物が「ない、わからない」と答

えた中学生が多かったことも見過ごせない。消費者に対して、光市の特産品をＰＲするような取組を行えればと思う。

●委員

学校給食に関しては、出荷者側として、数ではなくグラムで出荷できるよう依頼している。１個ずつ数えるとなると業務が増え、スーパー業務（集出荷業務）になるので、値段が上がる。また、言われる通り、給食に出荷すると他に出荷できなくなくなってしまうが、できる限り地産地消につながるよう協力したい。

小･中学生向けアンケートの結果について、自分が小学生だったころは、給食の野菜はあまりおいしくなかった気がする。栄養面での苦労もあるだろうが、おいしい野菜を提供する工夫として、できることはないだろうか。

●委員

小・中学生向けアンケートの「山口・光の恵み食べちゃろ！給食」の認知度が、小学生より中学生の方が高いのはどういった理由が考えられるか。

●委員

明確な理由は不明だが、小学生より中学生の方が、給食を経験している年数が長いからということも考えられる。学校放送で案内しているが、記憶に残っていないのかもしれない。

●委員

プラン１４ページに「販売協力店の店舗数が増えた」という記載があるが、これは「量販店」を指しているか。「販売協力専門店」も含まれているようなので確認が必要。また、「やまぐち食彩館」は「やまぐち食彩店」の誤りなので修正する。

これらの店舗がどのような店舗を指すのかが分かりづらいので、説明を加えたらどうか。

4　その他

事務局から今後の予定について連絡

・秋から冬頃に、今年度（令和４年度）の実績報告と来年度（令和５年度）の事業の進捗状況等について協議する予定。

5　経済部長あいさつ

おかげさまで、本日ここに第４次地産地消プラン（案）がまとまり、市議会３月定例会所管委員会に報告する段取りが整った。この推進会議では、立場が異なる委員の皆様から数々のご意見をいただき、その意見を基に建設的な意見交換が行われていたように感じる。

こうして集約した皆様からのご意見を事務局としても積極的に取り入れ、アンケートの実施方法や内容をはじめ、具体的な施策やＳＤＧｓチャレンジの３つのプロジェクトにつなげることができた。

計画を作るという一区切りがついたが、この計画を地産地消の「種子」として、皆様との連携を土台に、１年後には芽が出ることを期待している。そして、計画期間満了となる５年後には大きな収穫を迎えることができるよう、引き続きご協力をお願いしたい。本日を迎えられたことに感謝申し上げる。

6　閉会